



2022年4月29日

各位

上場会社名 株式会社エクセディ
 代表者 代表取締役社長 久川 秀仁
 コード番号 7278 東証プライム市場
 問合わせ先 取締役専務執行役員
 管理本部長 豊原 浩
 TEL (072) 822-1152

連結業績予想と実績との差異及び個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

当社は2021年10月27日に公表いたしました、2022年3月期(2021年4月1日~2022年3月31日)の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせいたしますとともに、2022年3月期(2021年4月1日~2022年3月31日)の通期個別業績につきましても前期実績との差異が発生いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想との差異

(1) 2022年3月期 連結業績の連結業績予想との差異(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上収益	営業利益	税引前利益	親会社の所有者に 帰属する 当期利益	1株当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	255,000	14,500	14,000	9,500	202.50
実績値(B)	261,095	18,328	19,467	12,477	265.92
増減額(B)-(A)	6,095	3,828	5,467	2,977	
増減率(%)	2.4%	26.4%	39.1%	31.3%	
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	227,420	9,513	9,066	4,983	106.24

(2) 差異の理由

2022年3月期の連結業績につきまして、国・地域によっては新型コロナウイルス感染症再拡大によるロックダウンや緊急事態宣言が発令されたものの、経済活動は一定の回復を見せており、売上収益は2021年10月27日の前回発表予想をやや上回る実績値となりました。

営業利益につきましては、半導体不足やサプライチェーンの混乱などの影響はあるものの、設備の稼働効率向上や諸経費の削減の他、原材料価格の高騰の影響が想定を下回ったことなどにより、前回発表予想を上回る結果となりました。また、税引前利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益につきましては、営業利益の増加に加え、円安に推移したことに伴う為替差益により、前回発表予想を上回る結果となりました。

2. 前期個別実績との差異について

(1) 2022年3月期個別業績の前期実績値との差異(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A) (2021年3月期)	百万円 100,419	百万円 2,833	百万円 7,747	百万円 2,016	円 銭 42.98
実績値(B) (2022年3月期)	112,933	6,759	11,672	9,399	200.32
増減額(B)-(A)	12,513	3,926	3,925	7,384	
増減率(%)	12.5%	138.6%	50.7%	366.3%	

(2) 差異の理由

2022年3月期の個別業績は、半導体不足の影響はあるものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響が緩和され、売上高は増加いたしました。営業利益、経常利益におきましては、原材料価格の高騰などがあるものの売上増加に伴い前年実績を上回る結果となりました。当期純利益につきましては、前述の要因に加え、前期において、インド子会社株式の減損損失 約46億円を関係会社株式評価損として特別損失に計上していたものが、当期は無いこともあり前年実績値を大きく上回る結果となりました。

以上